

2021年3月期決算発表 補足資料

2021年4月28日
日本ガイシ株式会社

〔セグメント間売上消去後〕

□ は2021/3公表値

	2020年3月期 通期		2021年3月期 通期		前期比	2022年3月期 通期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比		見通し	構成比		
売上高合計	4,420	100%	4,480	4,520	100%	+2%	4,850	100%	+7%
<海外売上高合計>	<3,098>	70%	<3,245>		72%	+5%	<3,500>	72%	+8%
営業利益 (率)	550 (12%)		490	508	(11%)	△8%	700	(14%)	+38%
エネルギーインフラ事業 ^{※1}	433	10%	430	420	9%	△3%	430	9%	+2%
営業利益 (率)	△49 (-)		△45	△40	(-)	-	△20	(-)	-
セラミックス事業	2,518	57%	2,440	2,489	55%	△1%	2,800	58%	+12%
営業利益 (率)	535 (21%)		405	412	(17%)	△23%	580	(21%)	+41%
エレクトロニクス事業	554	13%	540	541	12%	△2%	470	10%	△13%
営業利益 (率)	0 (0%)		25	28	(5%)	-	30	(6%)	+8%
プロセステクノロジー事業	915	21%	1,070	1,070	24%	+17%	1,150	24%	+7%
営業利益 (率)	64 (7%)		105	109	(10%)	+69%	110	(10%)	+1%

※1 21年3月期より「電力事業本部」を「エネルギーインフラ事業本部」へ改称

	売上高比	前期比	売上高比	前期比	売上高比	前期比
経常利益	520 (12%)	+2%	525	530 (12%)	680 (14%)	+28%
親会社株主に帰属する 当期純利益	271 (6%)	+42%	380	385 (9%)	500 (10%)	+30%
ROE	5.8%		7.9%		9.6%	
1株当たり純利益	84.73円		121.61円		159.89円	
配当金(配当性向)	50円(59.0%)		30円(24.7%)		48円(30.0%)	

為替レート(円/USD)

109

106

105

為替レート(円/EUR)

121

124

125

設備投資	940	21%	508	11%	△46%	440	9%	△13%
減価償却費	396	9%	449	10%	+14%	490	10%	+9%
研究開発費	229	5%	224	5%	△2%	240	5%	+7%

2021年3月期 実績・・・対前期比増収 営業利益は減益 経常利益・当期純利益は増益

① 事業別業績概況(売上高、営業利益)

【エネルギーインフラ】・・・減収も赤字は縮小

- ・がいし 不採算製品の撤退等により減収。利益は費用削減等により赤字を縮小。
- ・エナジーストレージ 国内外共に出荷は低調。

【セラミックス】・・・減収・減益

- ・自動車関連 乗用車・トラック販売台数は下期に急激に回復したものの、上期の落ち込みが大きく年間では大幅減となったことから、各製品の需要が減少し、減収・減益。

【エレクトロニクス】・・・減収・増益

- ・電子部品 HDD用圧電素子やウエハーの需要が増加し、増収・増益。
- ・パッケージ コロナウイルス感染拡大に伴う携帯基地局投資の停滞が影響し、減収・赤字。

【プロセステクノロジー】・・・増収・増益

- ・HPC ※2 好調なファウンドリ投資やメモリー投資の回復により需要が増加し、増収・増益。

② 為替影響:

売上高△19億円、営業利益△17億円
前期 109円→当期 106円/USD、121円→124円/EUR

③ 設備投資:

自動車関連や半導体製造装置用製品を中心に増産投資が一巡し、減少。

※2 HPC・・・半導体製造装置用製品

2022年3月期 見通し・・・対前期比増収・増益 売上高は過去最高※を更新

※2019年3月期 4,635億円

① 事業別業績概況(売上高、営業利益)

【エネルギーインフラ】・・・売上高は前期並み・赤字縮小

- ・がいし 需要低調も、人員スリム化・売価改善効果等により黒字化を見込む。
- ・エナジーストレージ 国内外で大口径出荷がなく低調。赤字が継続する見通し。

【セラミックス】・・・増収・増益

- ・自動車関連 中国・インド等の排ガス規制強化に加え、前下期から続く乗用車・トラック需要回復で大幅な増収を見込む。利益は償却費増も増収効果で増益の見通し。

【エレクトロニクス】・・・減収・微増益

- ・電子部品 HDD用圧電素子の需要堅調を見込むも、ウエハーの売上計上基準変更等により減収の見通し。
(※双信電機が2020年第4四半期から連結除外となり、69億円減収、1億円赤字縮小。)

【プロセステクノロジー】・・・増収・微増益

- ・HPC 高水準なファウンドリ投資やメモリー投資の回復基調が継続し増収。利益は償却費増等により減益の見通し。
- ・産業プロセス リチウムイオン電池正極材用加熱装置の需要が増加し、増収・増益。

② 為替影響

・前期比 売上高 △5億円、営業利益 △2億円
(前期 106円→当期 105円/USD、124円→125円/EUR)

・年間1円当たりの影響

USD(売上高 13億円、営業利益 6.8億円)
EUR(売上高 6億円、営業利益 0.4億円)

③ 特別利益

過年度に実施した増産設備投資等に係る補助金 45億円を計上予定。

④ 配当予想

中間 23円、期末 25円の年間 48円を予定。

⑤ 自己株式の取得及び消却を実施予定

(上限 5百万株、上限 100億円、市場買付:2021年4月30日から7月30日まで)

〔セグメント間売上消去後〕

	2020年3月期 第2四半期累計		2021年3月期 第2四半期累計		2022年3月期 第2四半期累計		前年 同期比
	実績	構成比	実績	構成比	見通し	構成比	
売上高合計	億円 2,198	100%	億円 1,949	100%	億円 2,400	100%	+23%
<海外売上高合計>	<1,552>	71%	<1,362>	70%	<1,700>	71%	+25%
営業利益 (率)	316 (14%)		116 (6%)		340 (14%)		+194%
エネルギーインフラ事業 ^{※1}	206	9%	191	10%	200	8%	+5%
営業利益 (率)	△24 (-)		△23 (-)		△10 (-)		-
セラミックス事業	1,282	58%	983	50%	1,420	59%	+44%
営業利益 (率)	309 (24%)		66 (7%)		290 (20%)		+336%
エレクトロニクス事業	283	13%	268	14%	230	10%	△14%
営業利益 (率)	4 (1%)		6 (2%)		10 (4%)		-
プロセステクノロジー事業	427	19%	507	26%	550	23%	+8%
営業利益 (率)	27 (6%)		66 (13%)		50 (9%)		△24%

※1 21年3月期より「電力事業本部」を「エネルギーインフラ事業本部」へ改称

	売上高比		売上高比		売上高比	前年 同期比
経常利益	297 (14%)		122 (6%)		320 (13%)	+162%
親会社株主に帰属する 当期純利益	212 (10%)		73 (4%)		250 (10%)	+244%

為替レート(円/USD)

109

107

105

為替レート(円/EUR)

121

121

125

設備投資	499	23%	290	15%	200	8%	△31%
減価償却費	189	9%	217	11%	240	10%	+10%
研究開発費	106	5%	107	5%	120	5%	+12%